

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## タマネギベと病の防除対策の徹底について

タマネギベと病については、これまでに病害虫対策資料第10号（令和6年2月13日付け）を発表し、注意喚起を行ってきたところですが、今後、曇雨天が続くと発生が急増する恐れがあります。ついでには、本病のまん延防止のため、下記を参考に防除指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生概況（令和6年3月19日時点）

- 1) マルチ栽培8圃場、露地圃場8圃場でのべと病の平均発生株率（一次感染、二次感染合計）は0.5%、発生圃場率は12.5%であり、発生株率は平年並である。
- 2) 発生は圃場間差が大きく、一部圃場では二次感染株の発生を認めており、多発圃場も認めている（写真1）。



写真1 ベと病二次感染株  
(3月18日撮影)

#### 2. 気象経過に基づく今後の発生予想

##### 【これまでの状況】

本病の感染に好適な気象条件の出現状況は、平年よりやや多く推移している（図1）。

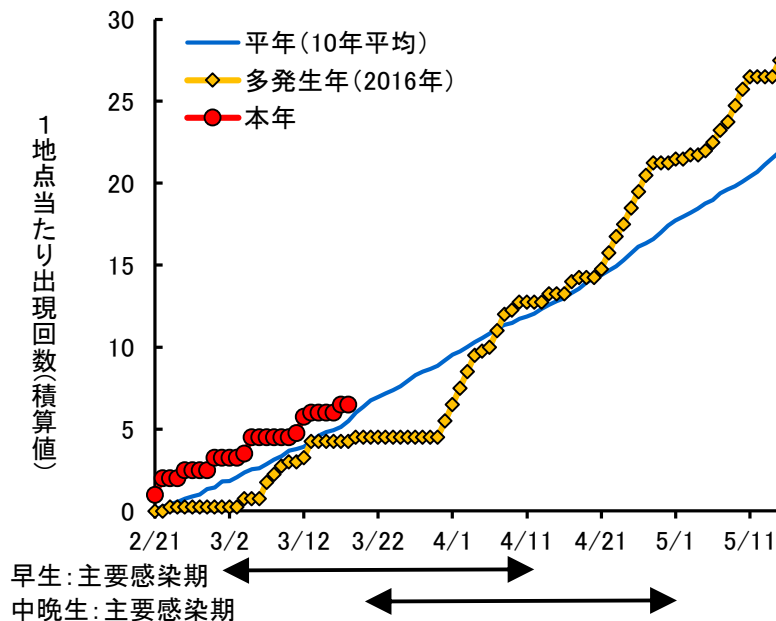


図1 タマネギベと病の感染・準感染好適気象条件の出現延べ回数（3月18日時点）

注) 北部九州4地点（佐賀市、佐世保市、福岡市、熊本市）のうち、1地点当たりの感染または準感染好適条件の出現回数の積算値を示す。

**【今後の予想】**

- ・3月12日頃の感染が、約2週間の潜伏期間を経て、今後発病する恐れがある。
- ・福岡管区気象台が3月14日に発表した九州北部地方の1か月予報では、降水量は平年並か多いと予想されている。特に、平年に比べ晴れの日が少ないと予想される3月23～29日にかけて曇雨天が続く恐れがあり、感染に好適な条件となる可能性が高い。

**3. 防除対策**

**【早生タマネギ】**（5月上旬収穫を想定）

4月上旬までの重点防除期は主にジマンダイセン水和剤を7～10日間隔で散布し、4月中旬にフロンサイドSCを散布する。

**【中晩生タマネギ】**（5月下旬収穫を想定）（図2参照）

4月下旬までの重点防除期は主にジマンダイセン水和剤を7～10日間隔で散布し、5月上旬はフロンサイドSCを散布する。なお、早生品種の収穫中であっても防除を継続する。

**【各作型共通】**

- ①引き続き圃場をよく観察し、一次感染株の抜き取りを徹底する。
- ②感染・発病後の薬剤散布では、防除効果が低いので、感染前の予防防除に努める。天気予報を随時確認し、曇雨天が予想される場合には、降雨前に防除を実施する。特に、2日以上降雨が続くと予想される場合はさらに注意が必要である。
- ③タマネギベと病菌は、周辺圃場にも広く飛散するため、地域全体で防除対策に取り組む。
- ④その他、防除対策の詳細は、佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき〈麦類・野菜・花き・飼料作物〉P265～268を参照する。

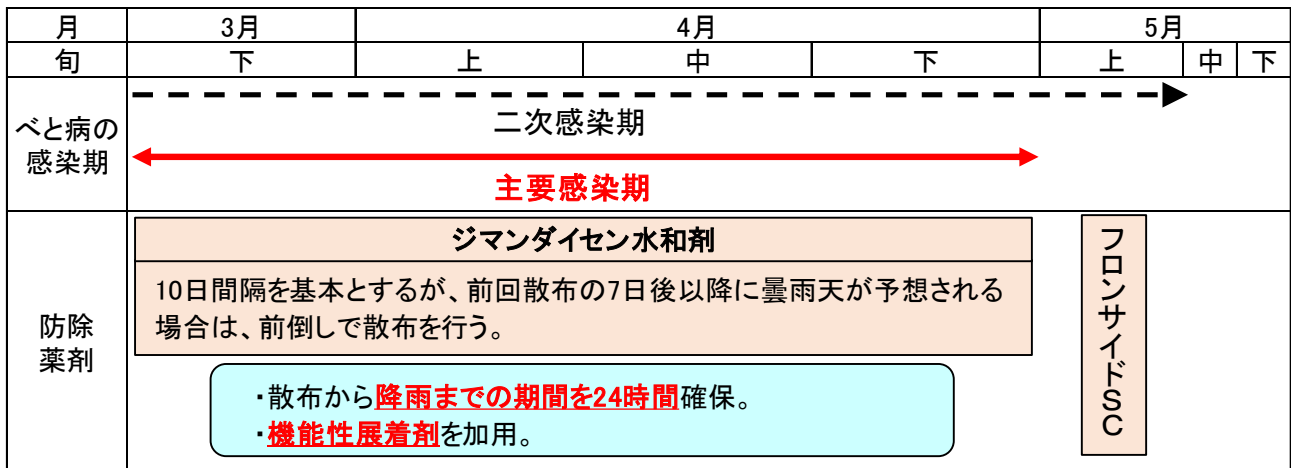


図2 中晩生タマネギにおけるべと病の薬剤防除体系(例)  
(露地栽培、11月下旬定植、5月下旬収穫を想定)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085 Mail <a href="mailto:nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp">nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp</a> ホームページアドレス <a href="https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html">https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html</a> 防除のてびき掲載アドレス <a href="https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html">https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html</a>	防除セQRコード 	てびきQRコード 
---	---	---